ズーム・アップ

年金改革への期待

民主党が公約した年金改革の新制度検討会は、五月をめどに基本的な考えをまとめることになっていた。五月になるのに、初会合以後、検討の内容は国民に何も伝えられない。会合では伝える収穫がないのであろう▼民主党は年金制度の創設に二〇一二年の制度設計、その翌年の関連法案成立を目指していた。また検討会は数十年後の社会構造の変化を想定し、その社会に適合する年金制度の基本原則をまとめるそうだ。ところで将来の国民が安心して老後をすごせる新年金制度は、右のように短い期間に実現するのが困難であろう。頼れる年金制度の創設には、慎重な検討や計画が必要と思われるので、もう少し時間がかかるであろう。国民はかなり安易にみえる年金改革に不安と疑問を抱くだろう▼民主党の年金改革は主要な柱が示されるだけで、国民には詳しい内容が分からないが、あるいは詳細かつ具体的な内容は白紙かも知れない。示された内容には、たとえば所得比例年金の役割と平均的な水準、無理なく払える保険料の内容、最低保障年金の最低の意味と水準の妥当性、最低保障年金の財源を消費税にしなければならない本当の理由などの疑問が挙げられる。また国民の財産である年金制度の創設には、与野党の利害、党利党略、議席数などを越えた平等な立場の協力が必要だろうが、政党の現状ではその実現は難しい。他にも各種の疑問があり、国民的な合意を得るには、疑問に答えなければならない▼検討会は関係省庁や有識者が課題を整理するそうだが、有識者は必ずしも専門家ではないのである。それはともかく万事人まかせにしないで、国会議員が整理にも参加して然るべきだろうが、議員は検討会の構成員に一〇名の大臣が示されるだけである。それらの大臣が年金改革を兼務で片付けるのだろうか。大臣は主務に専念し、年金改革は各党代表の議員が、検討や制度設計を担当すべきであろう。（す）

編集周辺

帰宅早々、妹に「わたし、GW中に整形するから」と言われる。両親からのバースデイプレゼントらしい。私も先月が誕生日。自身へのプレゼントに一眼レフを買った。美しいものをたくさん撮ってやろうと飼い鳥にレンズを向ける日々。妹も私も、「美の追求」という点では合致してるのに、ベクトルの向きは全然違う。言い換えれば、妹のほうが明日に希望を持っているということなのだろうか。妹より無駄に5年長く生きてる私は、整形にしてもリスクやコスト色いろ考え悲観的。こんな性格を少しばかり整形したい。眼球にメスいれる時代なんだから、脳みそいじってもおかしくないのかも　（いがちゃん）

昭和48年11月16日第三種郵便物認可
週刊　年金実務　第1891号　（毎週月曜日発行）
平成22年5月3・10日合併号　購読料　1年　54,000円

（発行所）社会保険実務研究所
編集人　奥家良介
発行人　海野昌照
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1－13
電　話　03（3253）1682（代表）
ＦＡＸ　03（3253）7836
E-mail : jitumu @ shahojitumu.co.jp

URL http://www.shahojitumu.co.jp